

対面会話における笑いの身体動作

- 性差はあるのか? -

林駿（経済学部 3 年）

指導教員：鈴木亮子先生

本稿では、「笑い」そのものの研究ではなく、笑いに付随しておこる「動作」について着目する。その理由として、私自身が笑う際によく手を叩く癖があり、以前友人に「テレビとかもそうだけど、なぜ手を叩くのか？」と質問されたことがあった。自分自身でよくする動作であることは把握していたし、確かによく目にする光景ではあるが、言葉で上手く説明することができなかった。その出来事がきっかけとなり、笑いと一緒に起きる動作について興味を持ち、深く探求したいと思ったからだ。そこで本稿では、対面会話において、笑いに付随して起こる身体動作にはどのようなものがあり、そしてそれらの使用には性差があるのかを明らかにすることを目的として、分析と考察を行った。

本稿の新規性は、社会心理学の観点・表情分析の観点・ジェンダーの視点のこれら三つの観点で行われた先行研究の穴を補完し、対面会話の環境下において笑いと共に起こる身体動作には性差があるのかについて分析をしている点である。また、このような分析が行われた研究は著者の知る限り存在しないため、研究目的そのものに新規性があるといえる。

本研究では、実際の会話データを用いて分析する。データとして『Sakura Corpus-TalkBank』（2010）を使用した。このコーパスは学生のグループトークにおける会話を現愛知淑徳大学教授の Susanne Miyata 氏が音声付動画で収録したものであり、全部で 18 回分が Talkbank という言語研究者向けウェブサイトにはアップロードされている。

著者が設定した笑いの判定基準に基づいて、抽出されたデータと先行研究で言及された機能を照合し、身体動作と性差の二つの観点から分析をした。4.1 では参加者たちが笑った際によく確認された動作（全部で 4 種類）を表にしてまとめた。次に 4.1.a では手で髪を触る動作、4.1.b では手で口元を隠す動作、4.1.c では手を叩く動作、4.1.d では前のめりになる動作（前傾姿勢）についてそれぞれまとめ、その際に考えられたことを提示した。

結果として、4 つの特徴的な身体動作について細かく論を進めてきたが、目的としていた男女差について言及するには事例の数が少なく、現時点で決定的な差があると断言することはできなかった。しかし、その中でも前のめり（前傾姿勢）の身体動作に関しては、男女混合での環境下だと男性 7 人・女性 11 人、同性の環境下だと男性 12 人・女性 51 人（単位：延べ人数）と数値に顕著な差が表れた。また、分析結果から笑いに付随して起こる身体動作にはそれぞれ異なる意味があり、対人関係を形成する上で重要な役割を担っていることが結論として得られた。